

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和5年5月23日

提出区分	実績	整理番号	19	課題区分	B
横断的な課題	リニア及び三遠南信自動車道の開通を見据えた取組の推進				
地域重点政策	地域資源を活かした地域振興				
実施機関	南信州地域振興局			担当課	所属 農業農村支援センター
事業名	農業の多様な担い手確保推進事業			電話	8-236-2481
				E-mail	minami-nosei@pref.nagano.lg.jp
事業概要等	目的 (目指す姿)	人口減少や高齢化により担い手が減少していることから、農家の後継者、定年帰農者など多様な担い手を確保し、地域農業振興を図る。			
	現状と課題	H27年度からR2年度の5年間で農業就業者数は3割減少し6,764人と20年前に比べ半数以下にまで落ち込み、担い手の確保に向けた対策が急務となっている。一方で新たな担い手確保に向け、これまで農ある暮らし講習会などの移住者等を対象にした講習会を開催し、16人の参加者を得るなど農業への関心は高まっているが、定年退職後に果樹経営を継ぐ後継者や他業種からの就業者など生産物を出荷する農業経営を行う新規就農者を対象とする技術習得の機会がなく、技術指導を中心に開催するなど、実践に向けた講習会の開催が必要となっている。			
	内容 (変更後の内容)	<p>新規就農者を対象とした、栽培技術習得講習会(帰農塾)を3月より開講する。 この講習会の中で、専門講座のコース別品種となっている、きゅうり・アスパラガス及びなしの資料について、わかりやすく解説した既存の資料があるため、これを活用して参加者に配布するとともに、4月以降の技術指導などにも活用し、新規就農者支援を引き続き行っていく。</p> <p>●栽培技術講習会(帰農塾) 主催:農業農村支援センター、JA 対象:他業種から就農する農家の後継者や定年帰農者などの新規就農者等 内容:新規に農業経営に取組む意欲のある方を中心に農業経営に必要な項目の座学を中心とした基礎講座と栽培技術・知識の基本を研修する実技中心の専門講座を1年間かけて講習する。</p>			
	事業期間	令和5年2月		～	令和5年3月
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画額	備考	
	品目別栽培技術資料の増刷	キュウリ・アスパラ施設化パンフ なし白紋羽病簡易診断法パンフの増刷	83,600	見積りによる ①キュウリ 400部 41,800円 ②アスパラ 300部 19,800円 ③日本なし 500部 22,000円	
	合計		83,600		
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況
	帰農塾参加者(3月のみ)		60名	48名	○ 達成
					○ 一部達成
					● 未達成
事業実績・成果	<p>3月9日に令和5年度帰農塾開講式を開催した。申込者数52名の内、37名の出席があり、関係機関含め全体で48名が出席した。今年度の受講生は、50歳以上が全体の約8割で、30～40歳代が2割程度となった。親の農地を有効に活用し、農作物の生産を行っていききたい方や、2拠点生活をし、南信州地域で農作物の生産・販売を行いたい方、ファンになってもらえるような品質のいいものを作りたいなどの思いのある方などさまざまであるが、いずれの方も生産・販売に意欲的な方々である。</p> <p>参加者に対して、きゅうり・アスパラガスの施設化の推進及び白紋羽病の簡易診断方法のチラシを配布し説明を行った。きゅうり・アスパラガスについては、施設化により重要病害の発生が減ることで収量が向上すること、また白紋羽病については、りんご・なし園等で枝挿入法による簡易診断で、病害の早期発見が行え、感染拡大防止や新・改植時の対策が行える旨を説明し、参加者からの理解を得た。</p>				
今後の方向性	<p>今回欠席された15名の方には、次回の講座でチラシを配布予定である。また4月以降各専門講座(りんご、なし、柿、きゅうり、アスパラガス、ミニ・中玉トマト 計6コース)の開催を予定しているため、現地での実習も含めてより分かりやすい説明を行い、受講生の生産・販売意欲の向上を図り、担い手の確保と定着に繋げていく。</p>				